

平成30年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上	「3」ほぼ期待通り	「2」やや期待を下回る	「1」改善を要する
-------	---------	-----------	-------------	-----------

学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成
---------	-------------------------------

本年度の重点目標	○生きる力を育む確かな学力の育成 【知：共にまなび伝え合う喜び】
----------	----------------------------------

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
生きる力につながる確かな学力の育成	■楽しく、分かりやすい授業づくり ・楽しい授業 ・分かりやすい授業	1	概ね「4」の評価 ○ 意欲的に学習に取り組んでいると回答した児童が97.5%で、楽しく学習に参加している状況である。今後も、学習問題や学習指導過程等を工夫しながら、児童が自分たちの生活と関連づけて、主体的に学習に取り組めるような工夫を行っていききたい。加えて、学習の様子を通信等で保護者にも発信していききたい。	3	3	○ 授業や集会などで、安心して自分の考えを発言できる雰囲気があり、各自の意見が出やすい環境になっている。最近ではプレゼンを要求される機会もあり、児童の技能向上のためにタブレットを使うなど、楽しく学習できる環境を学校も工夫していることがよく分かる。 ○ 絵や工作にもびのびとした色彩や技能が見られ、児童の表現力に生かされている。 ○ 学習内容については、児童・保護者ともに肯定的に捉えているようだ。今後も個人差等も考慮しながら、個別指導等の充実も積極的に行ってほしい。 ○ 家庭では、課題等に追われ、読書の時間が少ないのではないかと。また、読書に取り組む保護者も少ないのではないかと。読書は考える力を養うツールなので、新聞等も読んでほしい。学校としては、家庭での読書に関する保護者の関わり方などの積極的な声かけをお願いしたい。 ○ 家庭学習については、差が見られるが、全体的に不足しているようにも感じられる。今後は、学習の手引きを活用するなどの様々な方法で、児童・保護者に支援を行い、児童一人一人の学力の向上を含めて、良い方向に進めていただきたい。内容については、これで十分ということはないので、その時々に応じた有効なものを工夫してほしい。
		2	概ね「3」の評価 ○ 学校としては、児童の「主体的・対話的な学び」を充実させるような授業改善に取り組んでおり、「分かる・できる」まで教えることを意識した授業を展開している。その結果として、児童の92.5%、保護者の95%が肯定的に捉えている。今後は、少人数指導や複式指導及び話し合い活動の更なる充実を図っていく必要がある。			
	■基本的な学習態度や望ましい学習習慣の形成 ・聞く姿勢や態度 ・考えを伝える力 ・漢字力、計算力 ・読書の習慣（家読） ・家庭学習	3	概ね「3」の評価 ○ 児童・保護者ともに良好であるという回答がほとんどではあるが、教師としては「もう少し」と評価する部分もある。今後は、話をしている相手の方を向いて、耳だけではなく「体全体で聞く」といった指導を行っていききたい。			
		4	概ね「3」の評価 ○ 肯定的な評価が、児童77.5%、保護者82.5%となっており、更に評価が高まるように、発表の場の工夫やお互いを認め合う雰囲気づくりを通して、個々のスキルアップを図っていききたい。			
		5	概ね「3」の評価 ○ 保護者の肯定的評価は95%と極めて良好である。一人一人の力が更に伸びるように、授業中での習熟量の確保、業間時間（スキルタイム）の計画的・効果的な活用と共に、児童自身が主体的に取り組めるような手立てを通して、十分な定着へとつなげていききたい。			
		6	概ね「3」の評価 ○ 肯定的評価が、児童82.5%、保護者72%で、学校全体として、もっと高めていきたい。読書集会で行ったブックトークキングなどの手法による本の紹介等の取組を継続し、様々なジャンルの本への興味をもたせることや、家読への支援を行っていききたい。			
		7	概ね「2」の評価 ○ 家庭での生活リズムや学習習慣の定着については、家庭によって差がみられるので、具体的な取組等を紹介しながら、今後も継続して協力を呼びかけていきたい。また、ゲーム等への興味・関心が高い児童もみられるので、家庭でのメディアコントロール力育成への協力もお願いしていききたい。			

本年度の重点目標	○命を大切にし、豊かな心を育む教育の推進 【徳：生命を尊重し思いやる喜び】
----------	---------------------------------------

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
命を大切にしたい豊かな心の育成	■基本的な生活習慣の確立 ・挨拶の習慣 ・学校の生活のきまり ・手伝いや清掃（協力）	8	概ね「3」の評価 ○ 児童自身は、よく挨拶をしていると思っているが、保護者や教師の評価としては、学校以外の地域での場面や休日などの日常生活の中では、まだまだ十分でない面があると感じている。児童自身に挨拶することの意義をしっかりと理解させ、場に応じた挨拶が、自分から率先して行える態度を育成していく必要がある。	3	3	○ 挨拶をよくする児童とそうでない児童もいるようだ。なぜ挨拶をしないといけないうのかということを理解させる必要もある。また、我々大人も積極的に声かけをして挨拶しやすい雰囲気をつくることも大切である。 ○ 社会の中では、あらゆる場所できまりがあり、きまりがなかったらどうなるのかを児童に考えさせることも大切である。きまりを守らないことで、いろいろな人に迷惑をかけてしまう結果になるといこともしっかりと理解させる必要がある。 ○ 手伝いや清掃を通して、人の役に立つことの素晴らしさを感じ、積極的に活動できる児童の育成をお願いしたい。 ○ 先生方も多忙ではあるが、児童の何気ない日々の様子にもアンテナを高くして、細かな部分についても指導をお願いしたい。何気ない言動が人を傷つけてしまうこともあることや、児童一人一人がお互いを大切な存在であると認め、協力して生きていくことの大切さを強く指導してほしい。
		9	概ね「4」の評価 ○ 機会あるごとに継続的・具体的な指導を行っていることで、学校生活のきまりについては、児童の回答にもあるように、ほぼ守れている。しかしながら、細かな部分では、自分に甘くなってしまう、守れていない面もある。きまりを守ることにについては、公共のルールや公德心の育成につながっていく部分も大きいので、細かなことも見逃さない指導を継続していききたい。			
	10	概ね「3」の評価 ○ 児童の感覚としては、十分に清掃や手伝いをしていると感じているようであるが、教師や保護者の立場からは、まだ十分でない面もあると判断できる。みんなで協力することで生まれる一体感や、誰かの役に立つことで得られる自己有用感を味わわせるためにも、ボランティア活動への意識向上も含めて、主体的な態度を育成していききたい。				
	■学級の望ましい人間関係と思いやりの心の醸成 ・言葉遣い	11	概ね「3」の評価 ○ 教師や保護者（大人）がいる場面では、言葉遣いの乱れはあまり感じられないが、登下校時や休み時間、休日など大人がいない場面での言葉の乱れがある。このことは、児童自身も自覚しているようであるが、なかなか改善できていない。今後も粘り強く、思いやりのある正しい言葉遣いについて理解させるとともに、場に応じた言葉が使えた場面では、大いに賞賛するなど、言葉を意識させる指導を行っていききたい。			

命を大切に した豊かな 心の育成	・人間関係①(人権尊重)	12	概ね「3」の評価 ○ 道徳や学級活動での学習を通して、お互いがかげがえのない存在であるということ意識(実感)できている児童が増えてきている。なかには、友達のよいところをまねしようとする姿も見られる。しかしながら、友達の悪い点を厳しく指摘してしまう場面もあり、共感的な人間関係を醸成していきたい。		○ 日常の様々な場面の様子から、児童同士がとても仲がよい印象を受ける。集団登校の様子でも、お互いに声を掛け合ったり、荷物の多い児童の荷物を分担して持ってやったりするなどのやさしくて微笑ましい姿が見られる。 ○ 登校時に帽子や学習道具を忘れて、自宅まで取りに帰る児童も見かける。前日の夜から準備等をする習慣も大切だと感じる。 ○ 靴箱、教室、机など全般的によく整理されている様子うかがえる。整理整頓することで、何があるのか容易になり、いる物といらぬ物を仕分けすることで、「決める力・まとめる力・続ける力」を養ってほしい。
	・人間関係②(相互協力)	13	概ね「3」の評価 ○ ほとんどの児童が、「困っている人がいたら助ける。」と回答している児童が87.5%である。本校では、ピアサポートを基本として指導しており、お互いが助け合うことが当然で、やさしい行動が自然に行えるという良さをもっている。助けたいと思っはいるが、なかなか行動に移せないという児童の実践力を高めていきたい。		
	■整理整頓 ・整理整頓	14	概ね「2」の評価 ○ 肯定的な評価は、児童72.5%、保護者35%と評価に差があり、児童の自分自身に対する評価の甘さも感じられる。教師も整理整頓に関しては、個人差が大きく、そのことが忘れ物にもつながっていると感じている。今後も、学校と家庭が連携して、自己管理力の向上を図っていきたい。		

本年度の重点目標 ○健全な体の育成と安全教育の充実 【体：健康・安全で共に伸びる喜び】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
体の育成・ 安全教育の 充実	■基礎体力の向上 ・外遊びと運動	15	概ね「3」の評価 ○ 昼休みなど、学年を越えて仲良く元気に外遊びをしている。また、本年度は、朝の時間を活用した体力向上の取組を継続的に設定したことで、児童が積極的に体を動かす場面が増加している。加えて、サッカーやドッジボールなどボールを使った運動にも、昨年以上に取り組んでいる。	3	3	○ 「たくましい体」は、児童が成長する上で、大きな柱となっている。一人一人の体力及び個性に応じた目標設定と評価をお願いしたい。 ○ 登校時刻に大幅に遅れる児童もいるようであり、今後も規則正しい生活リズムの指導と個々の体調のチェックをお願いしたい。 ○ 登下校に関しては、上級生が下級生の面倒を見ながら実施できている。危険だと思う行動も見かけることもあるので、継続的な安全指導をお願いしたい。 ○ 自転車の乗り方については、以前より良くなってきている。道路の横断の際の安全確認もしっかりとできている。
	■健康な生活習慣の確立 ・望ましい生活習慣(リズム)の形成	16	概ね「3」の評価 ○ 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」への意識は高く、結果として遅刻が大幅に解消するなどのよい傾向が見られる。この生活リズムが更に向上できるように、家庭との連携を進めていきたい。			
	■安全教育の推進 ・安全意識	17	概ね「3」の評価 ○ 登下校や地域での様子や児童・保護者の回答から、交通安全に関する意識の高さがうかがえる。しかしながら、休日等の自転車の乗り方や遊びの様子に関しては、十分とは言えない面がある。下校前や休日前の指導の徹底を図り、「大丈夫だろう」ではなく「危険かもしれない」という危険予知の意識を高め、正しく危険を回避する能力の育成に努めていきたい。			

本年度の重点目標 ○地域に開かれ、信頼される学校の実現 【連：人の役に立ちつながり合う喜び】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
家庭・ 地域社会と の連携	■家庭・地域社会との連携 ・学校と家庭との連絡	18	概ね「3」の評価 ○ ほとんどの児童・保護者が、学校からの配布物等を家庭に届けていると回答しているが、一部には、配布物等が確実に届いていないという状況もある。学校からの配布物の中には、重要な内容のものもあり、確実に家庭に届くように、電話やお知らせメールなどを活用し、直接的に家庭と連絡を取るなどの手立ても講じている。	3	4	○ 一部ではあるが、配布物が保護者に届いていないことや、学校への提出物がおろそかになることが残念である。保護者へのお知らせメールの利用等、学校側の努力は理解できる。 ○ 親子でしっかりと話し合える場をつくり、児童が自分は愛されているという自己肯定感を感じることが大切である。多忙な中でも、保護者が児童と向き合う時間をつくって、愛情をいっぱい注いでほしい。 ○ 柱松など、様々な取組において、学校も保護者も積極的に地域に関わっていることが分かる。少ない人数でも学校や保護者も努力し、楽しんでいる様子も見られる。今後も、保護者を含めて地域に根を広げ、地域との連携を深めていってほしい。 ○ 学校・保護者・地域が、いつも児童の味方であるということを感じることによって情緒が安定する。市木の児童がそういう環境の中でのびのびと育っていつてくれることを願っている。 ○ 回覧板等も積極的に活用して、地域住民の方にも児童が頑張っている様子を定期的に発信してほしい。
	・親子の会話	19	概ね「3」の評価 ○ 児童の2割近くと保護者の2割が、学校での様子についての会話もう少しと回答している。児童の細かな変容の把握につながるので、何気ない学校での様子に関して、児童が話したくなる工夫や、忙しい状況でも保護者が耳を傾ける習慣の構築を呼びかけた。			
	・地域との交流	20	概ね「4」の評価 ○ ほとんどの児童・保護者が積極的に地域の行事等に参加していると回答している。地域行事に参加している児童の様子を見ても、とても楽しく参加していることがうかがえる。行事参加に関しては、保護者の理解と協力が不可欠であり、学校としては、今後も地域社会と保護者の繋がりが強くなるような役割を意識していきたい。			
	・学校からの情報発信	21	概ね「3」の評価 ○ 保護者は学校からの情報発信が十分に行われていると回答をしている。重要なお知らせ等は、マチコミメールを活用して迅速に発信するように心がけており、効果が確認されている。また、毎月の学校便りや積極的なホームページの更新は実施できている。今後も情報発信の充実を努めていきたい。			
・学校の対応	22	概ね「3」の評価 ○ 学校が子供や保護者の相談に対して、真摯に受け止め、対応を行ってきた結果として、ほとんどの保護者が良好であるという回答をしている。しかしながら、細かな部分では、十分な意思疎通が行えず、保護者の思いに十分に答えられなかった部分もあるように思われる。今後も学校としては、学校の教育目標の具現化を目指し、「全ては子供たちのために」という考えのもとに、地域や保護者に対して、誠意ある対応を心がけていきたい。				